特別支援教育の推進状況について

子ども総合相談センター

I 特別支援学級等の在籍状況（各年度5月1日現在）

1. 特別支援学級 在籍児童生徒数

	小学校			中学校			合計
	知障	自・情障	計	知障	自・情障	計	
H29	23	95	118	13	28	41	159
H30	26	92	118	16	36	52	170
R元	29	90	119	14	51	65	184
R2	30	83	113	19	55	74	187
R3	30	75	105	21	60	81	186

*知障…知的障害学級、自・情障…自閉症・情緒障害学級

2. 通級指導教室 通級児童生徒数

	小学校			中学校	合計
	LD等	言語障害	計	LD等	
H29	17	27	44	—	44
H30	13	33	46	0	46
R元	12	37	49	4	53
R2	18	32	50	7	57
R3	14	25	39	13	52

*LD等通級指導教室…岡谷田中小、岡谷西部中（H30年度開設）

岡谷北部中、岡谷南部中、岡谷東部中（R3年度サテライト教室開設）

*言語障害通級指導教室…神明小、長地小

II 特別支援教育推進の取り組み

1. 就学支援

①巡回訪問相談

特別支援学級の児童生徒や通常学級で特別な支援や配慮が必要な児童生徒の参観。学級運営、基礎的環境整備、合理的配慮等に関わる指導・助言を行う。

②就学教育相談

特別支援学級の入級・退級、特別支援学校の入学・転出入、LD等・ことばの通級指導教室を希望される保護者対象の教育相談。対象：年中から

③就学支援委員会、同小委員会

特別な支援を必要とする児童生徒等の就学支援について、専門的総合的な観点から適切な支援のための学びの場の判断を行う。

④発達検査の実施

発達に関する検査（WISC、K-ABC、S-M、ASA等）の実施

2. 連携支援

① 幼保小園長校長懇談会

配慮が必要と思われる園児について、園長から校長へ引継ぎを行う。また、幼稚園・保育園作成の「プレ支援シート」により、必要な支援情報の共有を行う。

② 子ども発達支援センターとの連携

- ・同センターの育成支援コーディネーターが、子ども総合相談センター勤務を兼務しており、園児の就学教育相談に同行している。
- ・就学後の円滑な支援のため、同センターの「ことばの教室」の言語聴覚士から小学校の言語障害通級指導担当への引継ぎを行う。

③ 特別支援教育コーディネーター連絡会（市、郡）の活動

各校の特別支援教育コーディネーター間の情報交換、研修の実施。

④ 共育（ともに育てる）懇談会

養護学校や市内小中学校の特別支援学級の保護者を対象とした懇談会。保護者同士の情報交換、懇談、外部講師による学習会を行う。

⑤ 障害児保育検討委員会（子ども課）への参加と助言

⑥ 関係機関との連携

- ・南信教育事務所特別支援教育推進員の訪問による指導、助言
- ・諏訪圏域障がい者総合支援センター「オアシス」の発達障がいサポートマネージャーとの情報交換、相談連携
- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所との連携

3. 充実支援

① 特支援教育支援員の配置

R3年度は33名の支援員を配置。学習、行事の際、支援補助を行う。

② LD・ADHD等児童のニーズ把握調査の実施

小学校1、3、5学年で気にかかる児童を対象に調査を行い、校内委員会等で支援の必要度を検討する。

③ 図形模写課題の実施

小学校1学年全員を対象に文字学習のつまずきチェックを行い、その結果に基づきLD等通級指導担当が学校訪問し、指導・助言を行う。

④ 多層指導モデル「MIM（ミム）」の活用推進

仮名文字学習でつまずきやすい特殊音節（拗音、促音）を指導するための教材。R2年度に小学校1学年全クラスに配置。

（MIM…Multilayer Instruction Modelの略）

⑤ 副学籍制度の推進

特別支援学校在籍の児童生徒が、住所地の小・中学校を「副学籍校」として、当該児童生徒、保護者の希望により交流や共同学習を行う。

- ・副学籍校から学校だより、学級だより等を届ける
- ・入学式、運動会、音楽会、卒業式等への参加
- ・作品や手紙、ビデオレター等による交流